

				A満足できる Bおおむね満足できる Cやや満足できる D課題も多く見直しが必要である			
評価	長期経営目標	短期経営目標	主な取り組み内容	評価指標	達成状況	学校関係者の評価	評価
知	すべての生徒の進路を障るために、生徒が主体的に取り組む授業づくりの取組を組織的に推進している	(1) 生徒の授業評価アンケート「『やってみよう』と覚える課題やめあてで良かったか」肯定群70%以上、教師の授業評価アンケート「生徒が主体的に取り組めるような課題が設定できている」肯定群70%以上 (2) 生徒の授業評価アンケート「自分の考えを広めたり、深めたりするなど、思考する時間はありましたか」肯定群70%以上、「根拠をもとに自分の考えを説明したり、書いたりする時間はありましたか」肯定群70%以上 (3) 生徒の授業評価アンケート「授業の振り返りの時間はありましたか」肯定群70%以上 (4) 「チーム会やチーム長会が自己の授業改善に活かされている。」強い肯定70%以上	(1) 生徒が主体的に取り組むことができるような課題やめあてを授業内で提示する。また、放課後学習教室や家庭学習とも運動し、生徒の「やりたい」「できそう」の思いを大切に取組の充実を図る。 (2) クラスメートや教師との対話や既習事項などを用いながら、自分で思考・判断したものを、書いたり相手に説明したりするなど、表現する場の設定をする。 (3) 授業の終末に振り返りの場を設定し、生徒自身が1時間の授業を通してどう感じたか考えさせる。 (4) チーム会やチーム長会等を中心に全教員が授業改善に取り組むとともに、研修等で得た学びを実践しようとしている。毎週1回のチーム会、毎月1回以上のチーム長会の実施。また、様々な専門職の講師を招聘し全教職員で共有し教育実践に活かしていく。	(1)(2)(3) 生徒と教師両方の授業評価アンケートを学期に一度(6月、11月、2月)行い、目標(到達指標)を達成している。	・週に一回チーム会を設定し、ABCそれぞれのチームで「教科共通の取組」の中から重点項目を定め、PDCAを意識して授業改善を図ることができた。 (各チーム会25回、チーム長会17回) ・講師の深沢先生を学期に一度計3回招聘し、授業通覧、全校授業研、講話などの研修を行うことができた。 (1) 「『やってみよう』と覚える課題やめあてで良かったか」強い肯定56.4% ・「生徒が主体的に取り組めるような課題が設定できている」強い肯定群30% (2) 「自分の考えを広めたり、深めたりするなど、思考する時間はありましたか」強い肯定63.2% ・「根拠をもとに自分の考えを説明したり、書いたりする時間はありましたか」強い肯定群60.4% (3) 「授業の振り返りの時間はありましたか」強い肯定53.4% (4) 「チーム会やチーム長会が自己の授業改善に活かされている。」強い肯定群40% ・年度当初に設定した到達指標の肯定を、強い肯定に変更した。生徒用教師用ともに中間検証よりも数値が上昇した項目が多く、研修等を通して教師の授業改善の意識が上がるのと同時に、生徒の授業に向き合う意識も向上した。 ・各学力調査から思考判断表現の問題に課題が見られたので、まとめや振り返りの方法に着目することも次年度取り組むことができたらよい。	B	B
徳	「幸福・愛・信じあう心」が通う学校が創造されている	(1) 道徳意識調査「将来の夢や目標をもっている」「自分には良いところがある」「人が困っているときは進んで助けている」の肯定群が90%以上。Q-Uアンケートにおいて、学校生活不満足群の生徒15%以下。 (2) 生徒(保護者)の学校評価アンケート「ルールやマナーを守っている」「あいさつができています」の肯定群が90%以上。「目標をもって学校生活を送っていますか」肯定群75%以上。 (3) 読書アンケート「読書が好き」の肯定群が90%以上。	(1)(2)① 全教育活動の中でボイスシャワーを実践する。また生徒の長所や取り組んだことに対して、生徒間で相互評価できる場を設定し、自尊感情を高める。② 目的意識をもった計画的な人権教育の実施により、自他の個性や生命を大切にすることを育てる。③ 学期はじめや各行事で「芸西っ子! キャリアパスポート」を活用することで、キャリア教育を推進する。 (3)① 図書館の環境整備をし、快適な読書空間を作るとともに、生徒が「読みたい本」を収集することで読書への関心を高めていく。 ② 生徒会図書部の活動を活発にし、読書への呼びかけ等を通じて読書好きの生徒を増やしていく。	(1)(2)①② 道徳意識調査「将来の夢や目標をもっている」「自分には良いところがある」「人が困っているときは進んで助けている」の肯定群が75%以上。Q-Uアンケートで、学校生活不満足群の生徒25%以下。③ 「芸西っ子! キャリアパスポート」の各学年での活用率100% (2) 生徒(保護者)の学校評価アンケート「ルールやマナーを守っている」「あいさつができています」の肯定群が70%以上。「目標をもって学校生活を送っていますか」肯定群65%以上。 (3) ①読書アンケート「読書が好き」の肯定群が90%以上。 ② 生徒会図書部が中心となり、読書啓発のための取り組みを行っている。	(1) ①道徳意識調査No.4-73.4%、No.9-70.3%、No.10-57.8%、学級活動や様々な行事を通して生徒一人ひとりが大切にされる取組を行ってきた。ボイスシャワーなど、受容的な取組を連携させることが、自尊感情の高まりにつながっている。 ②LGBTQIに関する講演会など多様性について考えるきっかけになり、追加制服の導入などに對する意識の変化が見られた。高齢者疑似体験や人権作文の取り組みなど計画的に実施できている。 Q-Uアンケートの学校生活不満足群の3学年の平均は15%から22%と増加した。分析から個々に丁寧に対応していく。 ③ 「芸西っ子、キャリアパスポート」活用率100%、来年度は、活用の質を高め、学校としての方向性や手立てを具体的に考察していく。 (2) 生徒(保護者)の肯定「ルールやマナーを守っている」82.8%(80.0%) 「あいさつができています」90.8%(84.4%) 「目標をもって学校生活を送っていますか」57.1%(52.3%) いずれも教職員との開きは大きい。 ① 「読書が好き」肯定群は70%、昨年度に比べて、若干数増加しているが、朝読書の時間以外で本を読まない生徒は依然と多く見られる。 ② 学校図書館の利用を「毎日」と答えた生徒が今年度から見られるようになっていく。	B	B
体	たくましく生き抜くための体力や健康的な生活習慣が身につけている	(1) 保健体育の授業や部活動に意欲的に取り組み、全国体力・運動能力調査のT得点において、男女ともに全国平均以上である。 (2) 生活点検により、朝食の摂取率90%、朝食における三色食品群の摂取率40%以上。 (3) 肥満度20%以上の生徒の割合が20%以下。	(1) 保健体育の授業で各学年に応じ、多様な運動との関わりになるよう工夫し、運動への意欲を高める。各部活動でランニングやトレーニング等を促す取組を行う。 (2) 学期に1回生活点検を実施し、現状や改善状況を把握する。保健日より家庭での啓発を行う。教頭がPTA役員会に提案し、PTAとしてできることを検討する。 (3) 年2回身体測定を実施。生徒・保護者に対する医療機関受診勧告、保健指導の推奨、家庭での生活状況の聞き取り等を行う。	(1) 保健体育の授業において、授業の流れやめあての提示、評価の基準の設定等、スタンダードに基づく授業が行われ、多様な運動との関わりのある授業となっている。部活動では、専門技術を身につけるとともに、体力の向上もはかっている。 (2) 生活点検を学期に1回実施し、保健日より啓発している。PTA役員会の議題にバランスのよい朝食の摂取に関する取組を提案している。 (3) 年2回の身体測定において肥満度を調べ、個別に指導・支援を行っている。	(1) 体力テストの結果は、まだ県平均が出ていないため比較はできないが、全体的に昨年度の個人の記録よりは数値が高くなっている。年間を通して苦手な種目での取り組み方法の工夫が必要。今後は体育の授業や部活動等で体力向上に向けて取り組みをしっかりと行い、個々での体力の向上を意識させる必要がある。 (2) 学期に1回生活点検を実施し、個別に保健日より発行し啓発を行った。三色食品群の摂取率は1学期43.7%、2学期42.8%、3学期42.6%で、前年度3学期(40.5%)より増加した。 (3) 年2回身体測定を実施し肥満度を調べ、個別の保健指導を行った。肥満度20%以上の生徒は18.1%であり、前年度3学期(8.1%)より増加している。中には心理面の不安定さが目立つ生徒や、不登校傾向の生徒もあり、指導の困難さがある。	B	B
不登校・特別支援	生徒全員が安心して登校している	(1) 不登校(長期欠席)への総合的な対応 ① 学校生活アンケート「みんなで何かするのが楽しい」の肯定群が90%以上である。 ② 新規の不登校生徒を出さない ③ 道徳アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の肯定群が100%	(1) 居場所づくり。全職員での情報共有。学級ではなかまづくり、教員とは信頼関係づくり。 (2) ①学期1回担任等との二者面談。SC・SSW・家児相等、関係機関との連携・協働。校内支援会の実施。② 生徒の活躍の場を設定し、生徒間の肯定的評価を仕組む学級づくり。③ いじめの早期発見・早期対応と未然防止への取組。	(1) ①・生徒会執行部が中心となり、生徒会行事などを運営している。・各行事での生徒の努力を生徒相互間でフィードバックする機会をつくっている。 ② 担任等との面談を学期に1回実施し、不登校の未然防止に努めている。必要に応じて校内支援委員会を行っている。 ③ 「いじめの定義」について4月に授業を行い、未然防止に取り組んでいる。学校生活アンケートに基づく担任等との面談を学期に1回実施し、いじめの早期発見・早期対応・早期解決に努めている。いじめはどんな理由があってもいけないという姿勢を教職員全員がもって指導にあたる。	(1) ①「みんなで何かするのが楽しい」肯定88.5%。生徒が主体的にが取り組む行事等を継続、充実させる。 ② 担任等との面談を学期に1回実施した。校内支援会は28回の予定。1月現在長欠10名(病欠7人継続3名)であり新規はいないが、長欠生徒の対応は急務である。 ③ 「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の肯定93.8%。全体的ないじめへの意識は低くないと考えられるが、生徒との面談を行う機会や開発的な手立て・支援の充実が必要である。 (2) 前期(～9月)の時間外平均は30時間で、45時間以内の割合が72%、後期(10月～1月)が17時間の84%	B	B
横断	(1) ICTを日常的に活用する授業実践・教育活動の充実 (2) 防災を中心とした安全教育・安全管理が充実している	(1) ICTの活用・情報リテラシー等の教職員研修や学習の機会を持ち、授業等での活用方法や実践力の向上と共にルールやマナーの育成を行う。 (2) ①計画的に避難訓練及び防災学習を行い、災害に備えている。② 生徒の防災意識が高まっている。③ 校内の安全点検が組織的に行われている。	(1) ①ICTの活用及び情報リテラシー育成に向けた学習を行う。② ミライシードの活用やタブレット端末の持ち帰りを推進していく。 (2) ①②様々な状況を想定した避難訓練を行い、「高知県安全教育プログラム」などを利用して防災学習を行う。また「いのく記者」の活躍の場をつくり、生徒の防災意識を高める。③ 担当個所を決め、教職員全員で校内の安全点検を行いながら、専門委員会の活動にも反映させる。	(1) ①全教科(教員・生徒)で単元をとおして1度はICTを活用する100%。情報モラルについて学ぶ授業を学期に1回以上行う。② 学びタイムなどでミライシードを活用する。タブレット端末の有効な活用方法や実践例を参考に研修を行う。 (2) ①年間、防災学習を5回以上、避難訓練を3回以上実施 ② 学校評価アンケート「地震が起こったときどのように行動したらよいか分かっている」の肯定群が90%以上③ 校内安全点検を学期に1回実施(教職員及び専門員生徒)	(3) 防災学習、避難訓練は計画通り実施できた。様々な状況を想定した避難訓練等、防災学習の充実を図る。アンケートの肯定、生徒87.3%、保護者81.5%、教職員91.7% (4) どの教科も積極的にICTを使うことができています。タブレットを使うルールの徹底や、教職員の研修の充実を継続的に図る。	B	B
小中連携	小中学校で9年間を見通した児童生徒の育成を行い、郷土愛を育む取組を推進する。	(1) 芸西村の目指す子ども像に基づいて小中学校間で協働した取組が進められている。	(1) ①中山間の特色ある学校づくり事業を軸に小中間で教員の連携・交流を活性化させる。 ② 合同研修や授業研究等の機会を通じて、児童生徒の課題等を共有し、小中で連携して課題解決に向けて実践を進める。 ③ 総合的な学習の時間を中心に、地域を題材にした学習を進め、生徒自身が地域や社会のために何ができるか考え行動する場面を設定する。	(1) ①②各学年と担当の打ち合わせを定期的に行う。指定事業に係わる連絡会を毎月行い小中合同研修を年3回以上行う。また、公開授業等にできる限り参加し合う。③ 道徳アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる。」の肯定群90%	(5) 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることある」肯定70.3%。地域に出向き多くの方と交流することや様々な出会い体験を継続していく。 (6) 職員会では全体周知、企画委員会で重要な観点での協議等、年間を通じて取り組めた。1月末までの全体での実施は9回	B	B